川崎ジュニア文化大賞

心をこめて手作りを

旭町小学校　５年生　平沢　環奈

ひき肉をこねるのは楽しい。ヌチャヌチャと音をたてながら、力を入れてがんばってこねる。初めは赤かったひき肉だったが、一生けん命こねていると、だんだんとピンク色になってくる。ボウルからこぼさないように、気をつけながらこねる。ハンバーグにして食べるときも、ぎょうざにして食べるときも、こねるのはいつだって私の仕事だ。

私は手作りが好きだ。準備にかける時間も、実際に作る時間も楽しくて好きだ。時間がかかっても手作りにはいろんな気持ちをこめることができるところも好きだ。

「今日のハンバーグはおいしいね」と家族に言わせたい。レストランに行くことも好きだし、電子レンジであたためるだけで食べられるハンバーグも好きだけど、手作りのハンバーグは作ることも楽しいし、おいしいのだ。

先日、五才のいとこと遊んだ。喜んでもらおうと思って、折り紙でけんとたてを作った。全長約六十センチのけんは自信作だ。会う前の日に設計図を作って、いとこがふり回しても簡単にはこわれないように工夫も考えた。つつ状の持ち手の部分には強度を出すために、内側に折り紙を丸めたものをつめた。けんの長さがあったほうがかっこいいので長くても折れにくくするために、折り紙を何枚も何枚も重ねてねじってある。たてはいとこの背中がすっぽりかくれるくらいの大きさだ。たて本体やたての持ち手部分が折り紙だけではやわらかすぎるので、折れ曲がらないようにたくさんストローを使って骨組みにした。最初、割りばしで丈夫にしようと思ったが、目にささったり、当たったりするとあぶないのでストローを使ったところも工夫した点だ。

私がこんなにいくつも工夫した理由は、今までに何度もいとこに折り紙のプレゼントをしていて、何度もこわされてきたからだ。小さい子は力加減がわからないようで、強くにぎりしめてしまったり、引っ張りすぎてしまったりする。せっかく作った作品がこわされてしまったら、私だって悲しい。戦いごっこに使うけんとたてなので、バシバシぶつかって遊んでも楽しめるように、少しでも長持ちさせたい。ふだんは集中力がないと言われる私だけれど、こういうときは時間が過ぎるのって早い！いい考えがいくつも浮かぶので、いとこに会うことが余計に楽しみになっていた。

その結果、いとこはすごく気に入ってくれて、夜ねる直前まで、ずっと放さず持っていてくれた。手作りするのは大変でも、工夫を考えるのは楽しいし、喜んでもらえたことがうれしかった。

手作りのいいところは工夫をたくさんいれられるところだ。時間をたっぷりかけてていねいに作ることができるし、使う人やあげる人を思って、特別なものにすることができる。

小学校で毎日使っている防災頭巾カバーやお手さげはお母さんの手作りだ。

私のリクエストの色や、好きな生地を選んで作ってもらった、私だけの特別なものだ。お母さんの手作りのものを持っていると、となりにお母さんがいなくても、まるでとなりにいるみたいな気分になれる。毎日、自分の席の背もたれにかかっている防災頭巾があれば、もし災害にあったとしても見守られている気持ちが伝わるから心強い。私がひき肉をこねているときや、いとこに折り紙でいろいろな工夫を考えたときと同じように、お母さんもきっと時間をかけて心をこめて作ったのかな。気持ちがこもっていることが伝わると大切にしたくなる。

毎日食べるおうちのご飯も折り紙のプレゼントも、お母さんが作ってくれた防災頭巾も、どれも世界にたった一つの特別なものだ。お店に行けばすぐ手に入るものや、準備がいらない便利なものがたくさんあるけれど、手作りには特別な思いをこめられるところがすてきだと思う。だから、これからも思いをこめて、私も手作りをしていきたい。

そして、お店で買ってきたものであっても大切にしたいと思う。売り物を作った人は誰だかわからないけれど、だからといって、せっかく作ってくれたものをらんぼうにあつかったりすぐに捨てたりしてもいいということではない。自分が手にするまでに関わったたくさんの人たちを想像すれば、どんなものにも感謝の気持ちをもちたい。

大切なことは作るときに気持ちをこめること、使うときには直接見えなくても関わっている人たちを思うこと、思い合うことだと思う。